

Ⅲ 公民一体型空間形成と実証実験の概要

(1) 公民一体型空間形成の方向性

i) 公民が連携した新しい仕組みづくり

街なか空間を効果的に活用していくには、公と民のストック（公共空間や不動産等の活用資源）を一体的にとらえ、公民の連携によって街なかの魅力創造と地域の活性化を図るための新しい仕組みづくりが必要である。

ii) 持続的な運営可能とする仕組みづくり

安全性の確保や管理上の課題への対応、財源的な持続性等を含めて、街なか空間の活用を持続可能な運営方法によって行っていくための仕組みづくりが必要である。

1. 大街道を市民に喜ばれる公共空間として使いこなす

2. 民間不動産等を新しい民間の経済活動の場として再生する

公と民の連携、協力によって、
この2つの課題を、同時、一体に解決していく
新しい取り組み

公民一体型空間形成の検討

- ・ 公民が連携した新しい仕組みづくり
- ・ 持続可能な運営を可能とする仕組みづくり

(2) 実証実験の実施について

①事業実験の考え方

下記の2点を目的として、公共空間の新しい可能性を模索する実証実験を行う。

○企画等へのフィードバック

- ・ 持続的な管理・運営方法を検討していくにあたり、街なか空間の新しい活用方法とその効果、活用に必要な労力や費用等について検証し、管理・運営の仕組みづくりへと反映させる。
- ・ 公共空間活用の実験により、効果的に活用するためのポイントや実施上の課題等を整理し、事業効果を高める観点から今後実施する取り組みの内容に反映する。

○魅力的な公共空間活用に関する機運醸成

- ・ 中央商店街では一年を通じて多くのイベントや催事が行われているが、日常的に滞留する空間としては利用されていない。
- ・ 実証実験で市民がその利用を体験することを通じて、公共空間を魅力的に活用する様々な可能性が認識され、市民が公共空間を効果的に使いこなしていく機運が高まることが期待される。

②実証実験の場所、区域の設定

i) 大街道2丁目南エリアを設定する

以下の特色を踏まえて、実証実験として高い効果が期待できる大街道2丁目南エリアを設定する。

- ・ 中央商店街の中でも広幅員であるため、公共空間を活用しても通行等に余裕があり、緊急車両の通行時等にも対応が可能である。
- ・ 大街道の概ね中間地点にあり、アエルの効果を中央商店街に波及させる上で重要。
- ・ 空き店舗が集中して見られるなど、実験の効果（Before/Afterの賑わいの違い）を認識しやすい。

ii) 実施する区域の範囲を絞り込む

実験の成果が認識されやすくなるよう、道路空間の管理・活用を行う範囲を絞り込み（50m程度まで）、コンパクトなエリアに集中させる。

実証実験の予定位置図

